

2023年度

湘南白百合学園中学校
入学試験問題

国語

45分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

○受験番号・氏名は解答用紙にも書くこと。

一

後の問いに答えなさい

*答えは解答用紙に書きなさい。

問一 次の——線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 街をネリ歩く。
- ② 成功をシユクフクする。
- ③ オンダンな地域に住む。
- ④ テツキョウを渡る。
- ⑤ ユウビン局に行く。
- ⑥ 版画を刷る。
- ⑦ 祖母の直伝のレシピ。
- ⑧ 雑木林について学ぶ。
- ⑨ 健康な状態を保つ。
- ⑩ 布を織る。

問二 次の文化庁ホームページ「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」から引用した文章、および資料1・資料2を見て、後の(1)～(4)の問いにそれぞれ答えなさい。

外国人住民の増加と【A】

日本に住む外国人は、ほぼ毎年増えている

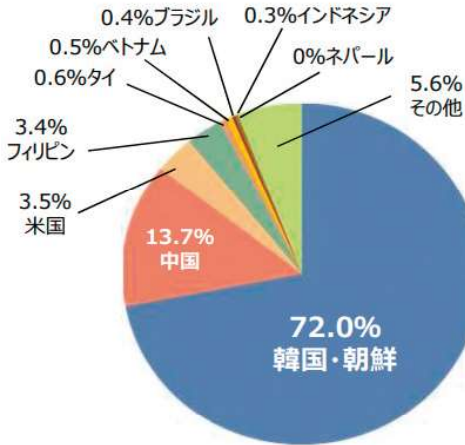
日本に住む外国人の数は、ほぼ毎年増えている、2019年末には約293万人で過去最多になり、30年で【B】に増えています。また、日本に住む外国人の国籍の多様化が進んでいます。日本に住む外国人の国籍を見ると、1988年には全体の7割強が韓国・朝鮮でしたが、2019年には中国、韓国、【C】、フィリピン、ブラジルの5か国を合わせて7割強になっており、上位10の国籍・地域の公用語だけで【D】言語に上ります。

外国人が日本で安全に安心して生活するためには、法律などのルール、在留や社会保険などの手続、災害・避難情報をはじめとする国や地方公共団体からのお知らせなどを正しく理解することが必要です。

- (1) 【A】に入る最もふさわしい言葉を文章中から書きぬきなさい。
- (2) 【B】に入るものとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア 約2倍 イ 約3倍 ウ 約4倍 エ 約5倍
- (3) 【C】に入る国名を答えなさい。
- (4) 【D】に入る言語数を答えなさい。

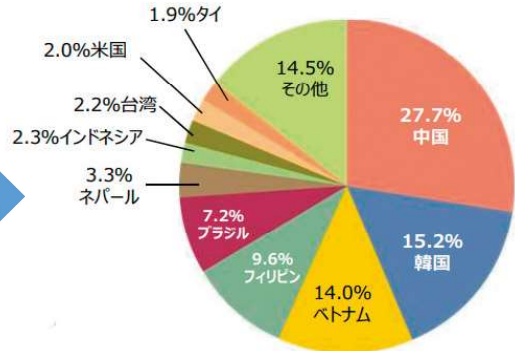
資料1 在留外国人の国籍・地域別内訳

◆ 1988（昭和63）年12月末



在留外国人（総数）91万1,005人

◆ 2019（令和元）年12月末



在留外国人（総数）293万3,137人

資料2 在留外国人の国籍・地域、公用語、人数（2019年12月）

	国籍・地域	公用語	人数
1	中国	中国語	813,675
2	韓国	韓国語	446,364
3	ベトナム	ベトナム語	411,968
4	フィリピン	フィリピン語・英語	282,798
5	ブラジル	ポルトガル語	211,677
6	ネパール	ネパール語	96,824
7	インドネシア	インドネシア語	66,860
8	台湾	中国語	64,773
9	アメリカ合衆国	英語	59,172
10	タイ	タイ語	54,809

問三 次の大阪市のホームページ「やさしい日本語」で話してみませんか？」から引用した文章、および資料1・資料2を見て、後の(1)・(2)の問いにそれぞれ答えなさい。

「やさしい日本語」は、外国人の方など日本語があまり得意でない方に伝えるため、わかりやすい言葉や表現に言い換えた日本語のことです。「やさしい日本語」を使えば、日本語があまり得意でない方と話すことができます。

資料1

「やさしい日本語」で伝えるポイント

- 1 全体的にゆっくり話し、言葉ははっきり発音する。
- 2 一文を短く、区切って話す。
- 3 難しい言葉は、簡単な言葉に言い換える。
- 4 外来語(カタカナ語)はできるだけ使わない。
- 5 曖昧な表現はせずに、具体的に伝える。
- 6 方言はできるだけ使わず、標準語で話す。

資料 2

「やさしい日本語」の例	
通常の日本語	やさしい日本語
「今朝はめっちゃ暑かったなあ」	「今日の朝は とても 暑かった ですね」
「土足厳禁」	「靴を ^{くつ} ^ぬ 脱いで ください」
「参加費は無料です」	①
「映画館に行くことをキャンセルします」	②

(1) 資料 2 の ① に入る最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 参加費は フリーです。
- イ 参加するとき お金は いりません。
- ウ 参加するとき 費用は けっこうです。

(2) 資料 2 の ② に入る最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 映画館に 行くことを 固辞します。
- イ 映画館に 行かないかも しれません。
- ウ 映画館に 行くことを やめます。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、問いに字数指定がある場合には、句読点なども一字分に数えます。（設問の都合上、本文を一部省略しています。）

《主人公西城春希は岡山県の女子校に通う中学三年生である。一月から日記をつけ始めているが、男になりきって書くことにしたため、自分のことを「ボク」と書いている。詩を書くことが好きで、学校では文芸クラブの部長であり、次のクラブ活動では次期部長を決めることになっている。また、インターネット上のサイト「いちごっこ」に、「かすみ草」というペンネームで先月の二月から詩を投稿している。》

庭の梅のつぼみが膨らみはじめている。

世の中には、春が訪れようとしている。

しかし、吾輩はゆううつである（筆者注・吾輩は猫ではない）。

ゆううつな三月。三月のゆううつ。

漢字で書こうと思ったが、吾輩には書けない。情けない。文芸クラブの部長としても、作家志望の西城春希としても、たいへんに恥ずかしい。辞書を引く。

憂鬱。

ボクの頭のなかで「鬱」という文字のパーツがばらばらに解体されて、それからゆっくりとひとつにまとまる。

うん、これでいい。

さて、前途有望で、青い春まっさかりで、若さをほしいままにしており、未来にはいいことしか待っていないはずの十代のボクは、なぜこんなにも憂鬱なのか。

本日はこのことについて書こう。

名づけて「憂鬱論」である。

憂鬱その1——新規部長選出のごたごた

まったく、なんでこんなことになったのか。頭をかきむしりたくなる。

前回のミーティングで決めていた通り、部員全員による投票をおこなったところ、二年の山田（仮名）と田山（仮名）が同点で並んだ。その下にはいろんな人の名前が挙がっていたが、それらは脇へ置いておき。

第一回の結果を受けて、山田と田山の決戦投票なるものをおこなったところ、なんとふたたび、ふたりはまったく同じ数の票を獲得してしまつたのである。

一年から三年までの部員総数〓二十二名だったのがまずい。二で割れない数だったら、こんな問題は起こらなかった。
顧問の先生は言った。

「仕方がないわね。だったら、西城さんに決めてもらいましょうか」

あっさりど、深い考えもなく（おそらく）^① 消しゴムを右から左へ動かすかのように。

「西城さんは部長なんだから、バトンを渡す相手を決める義務があるでしょう。みんな、それでいいかしら？」

「いいです」

「異議なし」

「さんせー」

そんな声も上がって、全員が同意し、ボクにその大役が課せられた。

実はそのときにはボクは別段、心配はしていなかった。

山田は、頭がすごくいい。切れる。人の上に立って、人をまとめていく力を持っている。成績優秀な子だ。国語以外の成績もトップクラス。もちろん文章もうまい。学校内外の作文コンクールでは入選の常連で「コンクール荒らし」との異名まで取っている。

田山は、とにかく優しい。性格がいい。おだやかで、慈愛に満ちあふれていて、後輩たちのめんどうをよく見ている。いわゆるマリアさまタイプだ。ただし、ここだけの話ではあるけれど、田山の文章は人柄ほど素晴らしいとは言えない。まあ、普通だろう。

そんなこんなで、ボクは^②迷うことなく「山田」を指名した。

われらが文芸クラブを引っぱっていく部長として、リーダーシップ拔群の山田を選ぶのは当然だろう、と思っていた。

山田はうれしそうだった。張りきるタイプなのである。

先生も、部員も、そして田山も「決まり！」と、賛成してくれた。

はずだったのに、なんとということか、数日後、田山からボクに一通のメールが舞いこんできた。部内で使っているグループメールじゃなくて、ボクだけに宛てたものだった。

それを読んで、ボクは愕然としてしまった。

あろうことかそこには、田山のボクに対する怨みがあるいと、涙ながらに、綴られていたのである。田山は、ボクに選ばれなかったことがよほどショックだったみたいだ。

信じていたボクに「裏切られた」とまで書いてあった。

③人前で恥をかかされた。退部も考えている」ということだった。

ああ、これ以上、書いていると、つらくなってくる。

メールを送ってきたのが山田だったら、ボクはきちんと返事を書いたと思う。なぜなら山田は、aじゃなくて、bの人だからだ。また、たとえ指名されなかったとしても「その理由が知りたい」と言ってくるだけで、ボクが理由を説明すれば納得する。山田はそういう奴だ。

しかし、田山に返事は書きづらい。何を書いても、また泣き言を言われそうだ。

田山はcの人なのだ。田山に論理は通用しない。「理由もなく悲しい」と言って泣く。田山はそういうタイプなのだ。

それにしても、ボクはボクの、人を見る目がいかになかったか、を、思いしらされている。田山に、こんな、じめじめ・うじうじ・鬱々とした（鬱という字、マスターできてる！）ところがあったなんて。いつも優しげに涼やかに微笑んでいる、あの、マリアの田山に、こんな、

昨日、急用が発生して中断してしまった「憂鬱論」のつづきである。

が、田山のことはもう書かない。書くとう気分が落ちこんでくる。あれは田山の問題であって、ボクの問題ではないのではないかと、ボクはd的にそう思うのである。

憂鬱その2——一期一会事件勃発

これについては、ボクが悪かった。反省している。

自業自得というのは、こういうことなのかもしれない。

ボクはボクの怠慢（と云っていいのかわ？）によって、^④親友Aの心をひどく傷つけてしまった。何もかもボクの優柔不断のせいである。事の発端は、親友A・Bと三人で出かけた、あこがれの作家のサイン会。

作家はボクらの本に「一期一会」ということを書いてくれた。

Aはそれを「いっきいっかい」と読んでいた。

あのときすぐに、ボクはその間違いを指摘してあげるべきだったのに、それをしなかった。Bもいっしょだったし、なんとというか、Aに恥をかかせたくなかった。しかし、それはボクの怠慢というか、逃げというか、自己保身に過ぎない卑怯な行為であった。

ああ、神よ、神よ、あなたさまはなぜ、こんないたずらをなさるのですか？

と言いたくもなるのだが、三日後の国語の授業中、指名されたAが読みはじめた文章のなかに偶然「一期一会」が出てきたのである。

Aは「いっきいっかい」と読んだ。

大きな声で、自信たっぷりにはきはきと。

教室のなかに、笑いの渦が巻きおこった。

当然のことながら、ボクは笑ったりしていない。できなかった。

ボクの顔はまっ青になっていた。いや、まっ赤だったかもしれない。とにかくたいへんなことが起こったと思い、あせっていた。

案の定、休み時間に話をしようしてと近づいていったボクを、Aは寄せつけなかった。ことばは、なかった。ただ、にらみつけただけだ。でもその「にらみ」がすべてを物語っていた。

ボクは何度も謝った。ひたすら謝罪した。

夜にはメールも送ったし、電話もかけた（留守番電話になっていたけど、録音メッセージを残しておいた）。

でも、Aの傷ついた心を治すことはできなかった。それどころか、ボクの謝罪によって、かえって傷が深まったようなのだ。五通ほど送ったメールに対して返ってきた一通には、ただ一文だけが記されていた。

——あとで謝らなくてはならないとわかっていることを友だちならしない。

確かにその通りだと思ったし、今もそう思っている。

友だちならしない、ということは、そういうことをしてしまったボクは、もうAの友だちでいる資格はない、ということか。

Bは一応、慰めてくれた。

「だいじょうぶじゃ、時間が経ったらきつと、だいじょうぶになるから。今はそっとしておいてあげれば？」

頭ではわかっている。

けれど、心は泣いている。つらい。全身、田山状態。

憂鬱その3——書けない作文

そんなこんなで、ボクは作文が書けなくなっている。

市内の全中学校が参加する春の作文コンクールの提出の締め切りは、三月二十日。

文芸クラブの部員は全員、応募することになっていて、みんなから作文を集めて、まとめて先生に手渡すのがボクの部長としての最後の仕事。

なのに、そのボクがまだ一文字も書けていない、というこの体たらく。

何を書こうとしても、田山のこととAのことが浮かんでくる。

ボクの心には今、このふたつの憂鬱しか存在していない。だから何をどう書いたとしても、それは作文にはならず、憂鬱文になるだけだ。

〈 中略 〉

いちごモデラート主催「いちごっこ」に投稿した詩（三月分として）。
三月のテーマは「心の輝き」である。Aのことを想いながら書いた。

ちいさなことは

ちいさいほうがいいね

ことは

ちいさくて、さりげなくて、目立たない

だれの目にもとまらない

野の花のような

ちいさなことがいいね

おおきいことはいらない

おおきいことははうるさい

おおきいことは傷つける

ちいさいほうがいいね

ころは

ちいさくて、やさしくて、輝いている

だれの心も傷つけない

朝つゆの玉のような

ちいさな輝きがいいね

あなたにあげるよ

ちいさなことは

ごめんね

あなたにあげるよ

ちいさなころ

だいすき

それらがたくさん集まれば

いつか新しい輝きを得る

あなたの胸のなかで

ビッグニュース到来!!!

大空に舞いあがりたくなる。

いや実際にボクの背中に翼が生えて、ボクは空を飛んでいってしまったのである。

このところずっと憂鬱さんまだったので「いちごっこ」のサイトをのぞくこともなかった。詩で遊べるような気分じゃなかったのだ。けれど、三月の詩を投稿したついでに、二月の入選作コーナーへふらりと立ちよってみたところ、なんと、ボクの作品は、入選作十五編のうちの一編に選びだされていて、ああ、それだけじゃなくて（興奮を抑えつつ）じゃじゃじゃじゃ——ん。

かすみ草作「いちごいちえ」は、二月の「ベスト1」に輝いていたのである。

びっくりした。

自分の目を疑った。

まさにほっぺをつねりたくなる。

夢のようだった。

すみからすみまでずいーっとサイトをチェックして、すみからすみまで読んでみた。夢ではなかった。ボクの詩は、2位を大きく引きはなして、断トツでトップ。編集部内でも文句なくトップ。とにかく満場一致の金メダル受賞だったのである。

ずらりと居並ぶコメントはどれも、絶賛、ブラボーの雨あられ。

編集長のコメントは、こうだった。

——詩の中で一瞬と永遠がひとつにつながっている。これが詩というものの持っている力だと感じた。言葉の遠近法が素晴らしい。

言葉の遠近法って、なんだろう？

よくわからなかったけれど、とにかくうれしい。うれしくてたまらない。

大空に舞いあがりながら、地上のコメントをひとつひとつ読んでいく。

目を皿のようにして、ことばを拾いあげていく。

—— ばり感激、ばり感動、ばりすごかねー。

こんなのもあった。

どこの方言だろう。「ばり」は「ものすごく」ってことなのか。

三月の最後の日。

いちごっこに投稿したばかりの「ちいさなことば」に、早くも、いくつかのコメントが寄せられていた。そのなかに、ボクはあることばを発見して、うれし涙を浮かべてしまった。

それは、友人Aのことばであった。Aは、ボクがこのサイトに投稿していることも「かすみ草」というペンネームも知っている。二月には「応援する！」と熱く語ってくれていた。Aのハンドルネームは「まりもちゃん」である。

まりもちゃんのコメントは、こうだった。

—— いい詩だと思います。傷ついていた心、癒いされました。「ちいさなことば」はきっと私のために書かれた詩だと思う。そうなんじゃろ、かすみ草さん？

ボクは叫さけびたくなかった。

許してくれたのだ、Aは。

ボクの「ごめんねとだいきさき」を、そのまんま、受けとめてくれたんだ。

照れくさくて、恥ずかしくて、直接そのことをボクには言えないから、このサイト内でさり気なく伝えようとしてくれた。泣ける。

憂鬱な三月がどこかへ飛んでいく。

ボクの手のひらのなかに、輝く春がもどってきた。

(小手鞠るい 『文豪中学生日記』)

問一 ——線部①「消しゴムを右から左へ動かすかのよう」にあります、この例えが表現していることとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 強弱 イ 長短 ウ 容易 エ 早速

問二 ——線部②「迷うことなく『山田』を指名した」がありますが、春希が田山ではなく山田を指名したのはなぜですか。理由を二十文字以上二十五字以内で答えなさい。

問三 ——線部③「人前で恥をかかされた」とありますが、田山がそのように感じたのはなぜですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 先生が新しい部長を決める権利をあっさりと春希に与えたから。

イ 春希が田山以外の人間を部長にふさわしいと部員の前で示したから。

ウ 他の部員の自分への評価が思っていたよりも低かったから。

エ 山田のうれしそうな様子が自分に対しての当てつけのようだったから。

問四

a

}

d

 にあてはまる語句として最もふさわしいものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい(同じ記号を何

回用いてもかまわない)。

- ア 感情 イ 情熱 ウ 普通 エ 理性

問五 — 線部④「親友Aの心をひどく傷つけてしまった」とありますが、その出来事を説明した次の文の（①）・（②）に入る言葉を文章中より探し、それぞれ漢字四字で書きぬきなさい。

親友Aが「（①）（②）」を「いっきいっかい」と読んだときに、いっしょにいた春希が（②）だったため、Aは国語の授業中に間違っただけのまま読んでしまい、笑われてしまった。

問六 友人Aは春希に対してどのように感じていますか。【憂鬱その2】以降の内容をふまえて、その心の動きを六十字以上七十字以内で説明しなさい。

三 次のA・B二つの文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、問いに字数指定がある場合には、句読点なども一字分に数えま
す。（設問の都合上、本文を一部省略しています。）

A 【本校注…課題文は著作権上の問題により記載しておりません。作品の該当箇所につきましては次の書籍を参考にしてください】
・イアン・レスリー著、須川綾子訳『子どもは10000回質問する』（光文社未来ライブラリー 二〇二二年五月初版第一刷発行）
六四ページ二行目～六六ページ八行目

B 【本校注…課題文は著作権上の問題により記載しておりません。作品の該当箇所につきましては次の書籍を参考にしてください】
・同書九九ページ二行目～一〇四ページ七行目（途中に省略された箇所があります。）

(注) *1 端的……要点だけをはっきりと示すさま。

*2 模倣……まねること。

*3 駆使……自由に使いこなすこと。

*4 いきり立つ……激しく怒って興奮する。

*5 拡散的好奇心……目新しいことすべてに引き付けられること。

*6 マーク・パーゲル……生物学者。

*7 ジョージ・ローウェンスタイン……心理学・行動経済学者。

*8 ダニエル・バーライン……心理学者。

問一 次の一文は本文中 a } c のどの位置に入りますか。記号で答えなさい。

人間はどうしてこれほど順応性が高いのだろうか。

問二 ——線部①「水平的学習」の例として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア クラスの中での話し合いで、友人の意見を聞いて刺激を受ける。

イ いとこのお姉さんから中学受験の体験談を聞き、勉強の参考にする。

ウ 伝記を読んで偉人がどのようにして目標を達成したかを知る。

エ 祖父から戦争の体験談を聞き、平和について思いを深める。

オ クラブ活動で上級生たちの見事なチームワークを参考にする。

問三 ——線部②「自動車が生じたのは、その発明者が車輪から発明しなくてすんだからだ」とありますが、この自動車の例からどういうことを言おうとしていますか。五十字以上六十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問四 — 線部③「これら二つの領域」とは何を指していますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 面白いことと、壮かさや難しさのせいで挫折しそうなこと。

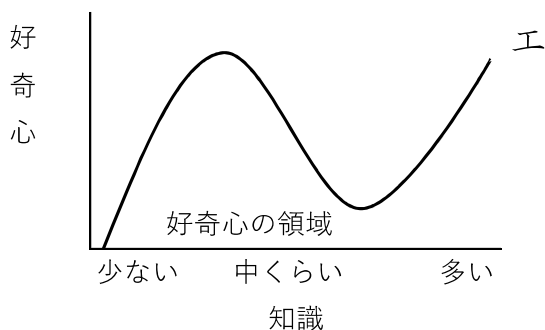
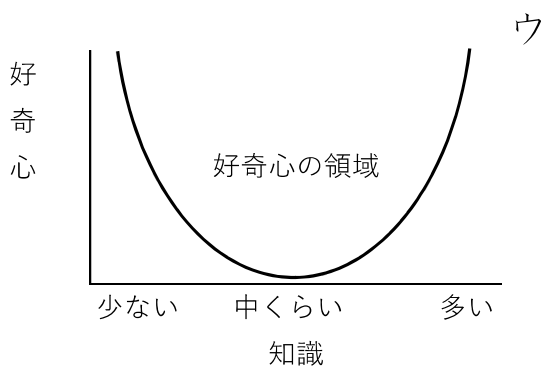
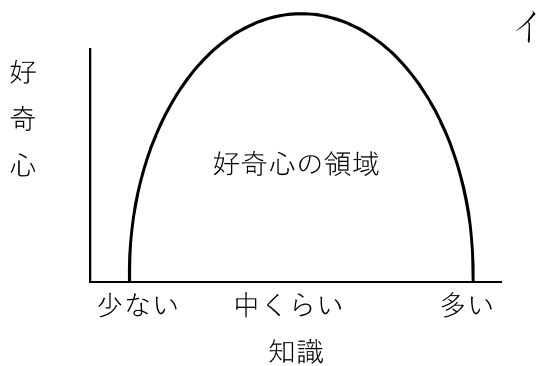
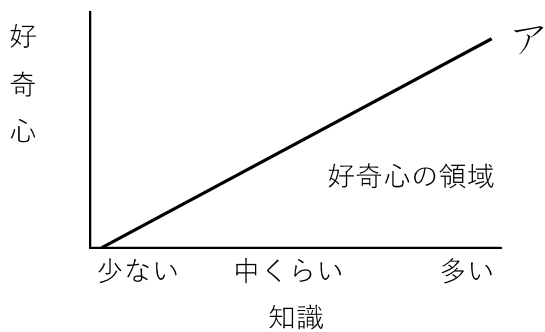
イ 少しでも知識があることと、まったく興味を抱けないこと。

ウ 何も知らないことと、すでに知り尽くしているという自負があること。

エ すでに知り尽くしているという自負があることと、知りたくないこと。

問五 [B]の文章の★印の部分には、好奇心と知識の関係を表すグラフが添えられています。どのようなグラフでしょうか。★印の部分

の内容を参考にして、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。



問六 ——線部④「クリックを続ける傾向が格段に高くなった」のはなぜですか。次の文の（ ）に入る最もふさわしい言葉を文章中から十二字で書きぬきなさい。

クリックして現れる画像が、なんの動物が隠れているかという（ 十二字 ）となるから。

問七 本文の内容や表現の特徴として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア [A]では万物の長としての人間の能力のすばらしさについて述べ、[B]では具体例を示してその主張を裏付けている。
- イ [A]では情緒的に人間のすばらしさについて述べ、[B]は実験結果を論理的に述べるといふ対照的な表現になっている。
- ウ [A]は歴史を振り返った時間の広がりのある内容、[B]は諸外国の例を比較した空間的な広がりのある内容となっている。
- エ [A]では人間がもつ特性である文化と好奇心について述べ、[B]では好奇心についてもっとくわしく分析している。

（おわり）

受験番号

				番
--	--	--	--	---

氏名

得点

	※
--	---

※には何も書かないこと

⑥	①
る	り
⑦	②
⑧	③
⑨	④
つ	⑤
⑩	⑤
る	

③	①
④	②

①	②
---	---

①	②
---	---

①	②
a	b
c	d

①	②
---	---

①	②
---	---

①	②
---	---

※

※

※